

令和4年度
(2022年度)

自己点検・評価報告書

令和4年(2022年)4月1日から
令和5年(2023年)3月31日まで

令和5年(2023年)5月1日

学校法人吉田学園
北海道スポーツ専門学校

■令和4年度 自己点検・評価について

〈説明〉

本校が、教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的責任を果たしていくため、校訓や学校の目標と教育の実態とを照らし合わせ、自らの教育研究活動等の状況について自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己評価を行いました。

1. 対象期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

2. 委員会開催

令和5年5月1日(月)

3. 実施方法

(1) 実施組織: 自己点検・評価委員会

委員長: 滝本 玲 北海道スポーツ専門学校 校長

委員: 齋藤 敬男 北海道スポーツ専門学校 学科長

今北 雄太 北海道スポーツ専門学校 副学科長

(2) 評価基準: 文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しています。

(3) 評価方法: 学則、教務内規、学習のしおりや学生便覧に記載されている校訓や指導規定などと照らして各種評価を行い、自己点検・評価委員会を開催し、学校として自己点検・評価を取り纏めています。

4. 評価項目

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

5. 評価項目に対する評価

(1) 4段階で点数評価しました。

4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切

(2) それぞれの評価項目のうち評価3以下のものについての状況と課題、対策について報告いたします。

1 学校の教育目標

自立・実践 ～主体性ある学びができる人材の育成～

(以下、「学生便覧」より抜粋)

専門学校は社会人としての心構え、知識、スキル、マナーを学び、社会に出て即戦力となる人材を育成する場です。学校生活がその実践の場であるとの認識をもち、学生としての甘えを捨て、ひたすら自分の将来像に向かうことに集中しましょう。

そのために、出来るだけ他人(親や先生等)に頼ることなく、自らの意思で行動できる学生として、学校生活を送ってほしいと思います。例えば、

- 他人から言われて“学習や検定”に取り組むのではなく
- 他人から言われて“挨拶やマナー”を身につけるのではなく
- 他人から言われて“就職活動”(面接練習や就職先の研究等)に取り組むのではなく

「何事にも自立の精神をもって実践し、複雑な人間関係や組織等、時代の変化が激しい社会に果敢に立ち向うことが出来る人間に育ててほしい」との願いから、学校目標を“自立・実践”としました。皆さんが自分の夢に一步步前進出来るような行動、頑張り、成長を期待しています。

※教育の三本柱 「 就職 ・ 資格取得 ・ 部活動 」

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1 入学者数の増加

学校で取り組まれる全てが広報活動に関係することであることを理解し、全職員が協力体制で臨む。

2 離脱率の減少

学生指導の更なる充実を図り、学生との密接な係わり合いやモチベーション継続支援を強化する。

3 高い就職率

「専門学校グループ 教育基軸(就職支援)」を活用し、様々な手法や考え方で段階的なアプローチを行う。

4 資格取得率の向上

対策の強化を図り、同時に資格へのモチベーションを維持・向上させながら、計画的かつ組織的に取り組む。

5 部活動の充実と発展

部活動を通した人間形成及び、在校生の満足度を上げるための部活動運営に取り組む。

6 附帯教育施設(スポーツプラザ iB)運営

安心、安全、快適な施設運営による会員・スクール生の満足度向上とインストラクターのレベルアップを図る。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(1)-1 学校の理念・目的・育成する人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
(1)-2 学校における職業教育の特色は何か	4
(1)-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
(1)-4 学校の理念・目的・育成する人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
(1)-5 学校の教育目標、育成する人材像は、学校に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

(1)-3

日々変化する業界ニーズと社会的背景等に対応すべく、学校の将来構想を適宜、具体的なものとして明確に打ち出し、共有・周知が必要である。

② 今後の改善方策

(1)-3

学校の特色や社会(業界)ニーズ等を見据えた学校の将来構想および安定した学校経営・学校運営のために必要な見直しやブラッシュアップ等を行う。

③ 特記事項

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(2)-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
(2)-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
(2)-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
(2)-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
(2)-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
(2)-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
(2)-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
(2)-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

- ① 課題
特になし
- ② 今後の改善方策
特になし
- ③ 特記事項
特になし

(3)教育活動

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(3)-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
(3)-2 教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
(3)-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
(3)-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
(3)-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
(3)-6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
(3)-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
(3)-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
(3)-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
(3)-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
(3)-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
(3)-12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
(3)-13 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
(3)-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

- ① 課題
(3)-10 (3)-12 (3)-13 (3)-14
体系的に整備されたカリキュラムをベースに、特に資格取得に係る指導体制(担当教員の授業スキルアップ・教育力強化に繋がる関連分野における研修等の実施・参加、組織的管理等)の確立が必要となる。その中でも、資格取得率向上には大きな課題がある。

② 今後の改善方策

(3)-10

「専門学校グループ 教育基軸(授業運営)」の活用を推進し、特に資格関連科目の授業スキル、授業力の強化を図り、管理者を交え計画的かつ組織的な取り組みを確立する。
また、資格取得において学生のモチベーション維持を目的としたスモールステップの実践を図る。

(3)-12

アスレティックトレーナー専任教員の確保に課題があり、改善を図りたい。

(3)-13

研修(オンラインセミナー等)への積極的な参加を促し、先端的知識・技能の修得及び実践(展示会、セミナー参加)をすることにより、学生支援も含めた、教員としての資質・能力向上を図る。

(3)-14

各種研修会(オンラインセミナー等)を活用し、また学校独自の研修会等を開催することで自己研鑽機会を提供する。

③ 特記事項

特になし

(4) 学修成果

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(4)-1 就職率の向上が図られているか	4
(4)-2 資格取得率の向上が図られているか	2
(4)-3 退学率の低減が図られているか	2
(4)-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
(4)-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

(4)-2

担当教員が中心となり合格率向上に向けた具体策を実施してきた結果、主要資格(アスレティックトレーナー、健康運動指導士、健康運動実践指導者、JATI トレーニング指導者)については前年度よりも向上は見られたが、合格目標値には及ばなかった。他の資格についても十分な安定感を維持できていない。

(4)-3

近年改善が図られつつあったが、目標達成に至らなかった。学生の出席状況含めた学習状況や様子の変化について、早期に把握が図られるよう、組織的な管理体制の構築に努めていく。

② 今後の改善方策

(4)-2

資格取得へのモチベーション向上、資格取得の必要性を認識できるよう、段階的な目標設定を行い、環境づくりや仕組みを作り、計画的かつ組織的な取り組みにより学生を資格取得まで牽引していく。また、「学内模擬試験を充実させ時期による習熟度の把握・段階的指導」、「補講実施」、「専門学校グループ 教育基軸(授業運営)やそれに付随する各種研修会・勉強会による授業スキル、授業力の強化」、「管理者を交えた経過点(各期の目標点)における到達度合いの確認や修正見直し」等の取り組みを図る。

(4)-3

当該クラス担任から上長職までの段階的な指導継続を意識し、学生の早期変化に気づき対応できるよう努める。「専門学校グループ 教育基軸(学生指導)」の理解を深めその活用が図られるよう組織的な管理体制の構築に努めていく。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(5)-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
(5)-2 学生相談に関する体制は整備されているか	4
(5)-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
(5)-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
(5)-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
(5)-6 学生の生活環境への支援は行われているか	4
(5)-7 保護者と適切に連携しているか	4
(5)-8 卒業生への支援体制はあるか	3
(5)-9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
(5)-10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

(5)-8

再就職、資格取得に対して随時対応している。

② 今後の改善方策

(5)-8

今後も相談、問合せに対しては、最大限の情報提供にて継続対応する。

- ③ 特記事項
特になし

(6) 教育環境

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(6)-1 施設・設備・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
(6)-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
(6)-3 防災に対する体制は整備されているか	4

- ① 課題
特になし
- ② 今後の改善方策
特になし
- ③ 特記事項
特になし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(7)-1 学生募集活動は、適正に行われているか	3
(7)-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
(7)-3 納付金は妥当なものとなっているか	4

- ① 課題
(7)-1
学校全体が広報を意識することとその浸透を徹底しながら活動は行われたが、定員確保には至らなかった。
(7)-2
資格取得率等、教育成果としては不十分であり改善が求められるものがあつた。
- ② 今後の改善方策
(7)-1 (7)-2
学校で取り込まれる全てが広報活動であることを理解し、「オープンキャンパス参加者の満足度向上(高い出願率)」、「高校(顧問)との接点強化」、「産業界との連携のPR」、「あらゆる教育活動(資格取得率等)における結果の追究」等を主に全職員が協力体制で臨む。また、より多くの魅力が発信できるオープンキャンパスの在り方について再検討を図る。
- ③ 特記事項
引き続き、定員充足を意識して、より計画性を持って業務に当たることが必須である。

(8)財務

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(8)-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2
(8)-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2
(8)-3 財務について会計監査が適正に行われている	4
(8)-4 財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

(8)-1

入学者の増加は図られているが、定員確保にまでは至っておらず、今後改善に努めたい。

(8)-2

予算・収支計画については、有効性や妥当性をより慎重に判断しながら進めていく。

② 今後の改善方策

(8)-1 (8)-2

学校の知名度を高め続け、それらを募集活動に結び付けられるよう、より一層注力する。併せて休退学者の抑制に最善を尽くす。

③ 特記事項

特になし

(9)法令等の遵守

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(9)-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
(9)-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
(9)-3 自己点検・評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
(9)-4 自己点検・評価結果を公開しているか	4

① 課題

(9)-3

問題点の改善に関する取り組み等は進められているが、継続性が不十分な部分も見受けられる。

② 今後の改善方策

(9)-3

短期(年度)から中長期的に、改善すべき課題や問題点を洗い出し、優先順位の高いものから計画的・段階的かつ組織的に取り組んでいく。

- ③ 特記事項
特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(10)-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
(10)-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
(10)-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

- ① 課題
特になし

- ② 今後の改善方策
特になし

- ③ 特記事項
特になし

(11) 国際交流(令和4年度の留学生在籍なし)

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(11)-1 留学生の受入れについて戦略を持って行っているか	—
(11)-2 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	—
(11)-3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	—
(11)-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	—

- ① 課題
特になし

- ② 今後の改善方策
特になし

- ③ 特記事項
特になし

総 括

重点的に取り組むことが必要な各種の目標や計画に対し、一部達成することが叶わなかった項目はあるものの、全体を見れば昨年度までの課題を踏まえ、全職員が一致団結しより良い運営を達成していく為のアプローチが図れていたと評価できる。特に学生の休退学率低減と就職率向上においては、クラス担任と部活動顧問及び上席者で密な情報共有と連携を図りながら、学生の変化に対する早期対応と将来ビジョン実現に向けた動き出しのサポートができていた。また、今年度は活発な部活動の再開により学生満足度の向上も図れたと考える。近年の新型コロナウイルス感染症の影響により、各種大会が中止となり、活動自体も自粛・縮小を余儀なくされてきた。その為スポーツを専門的に学び実践する学生にとっては、スポーツに関する知識や技術への理解を深める経験・学習の時間が奪われていた。今年度は学生及び教職員がこれまで以上に部活動にも精力的に力を注げる環境を整えることができた。その結果、野球部の全国優勝やサッカー部の全国ベスト4を始め、各部において素晴らしい成績を収めることができ、学生の活気ある姿を取り戻すことができた。

今後は、今年度の運営を通して明らかになった課題の解決はもちろん、達成できた項目の更なる向上を目指し、行動計画を立案し実践していく。その中で、教職員全体がより一体感を持って取り組める環境の整備も継続し、学生・保護者とともに教職員の満足度も高まる組織運営を実現できるよう、組織体制の構築を図っていきたい。